

第50回大学祭開催

11月1日(金)から4日(祝)までの4日間の日程で第50回大学祭が開催されました。



常三島祭は、今までの歴史を誇りとして胸に抱き、今年も大学祭を成功させたいという思いと、またこの大学祭の思い出が来場者の方々の中にいつまでも輝き続けるようにという願いを込めて「Stay Gold」いつまでも輝いていて〜」をテーマに、蔵本祭は、一丸となって盛り上げていこうという意味と、みんなで一致

団結して思い出となるすばらしい学園祭を作り上げていくことはもちろん、これからのチーム医療における『団結・協力』の意味も込めて「Working as One」をテーマに両地区で開催されました。開催期間中は生憎の寒波に見舞われ、1日(金)は雨、4日は曇りにまでたたられたものの、その外は好天に恵まれ、来場者が両地区で延べ約7000名を数える盛況な大学祭となりました。

学長と大学院生との懇談会開催

9月26日(木)、事務局第一会議室において「学長と大学院生との懇談会」が開催されました。



積極的に意見を述べる女子院生

今回で2回目となるもので、6研

究科から16人の大学院生と齋藤学長、両副学長、各研究科教授、事務局長、学務部長が出席し、予め寄せられた意見・要望等に対し、学長や各研究科教授から説明があり、大学院生からは研究指導・配属の具体的な悩みや国立大学法人化検討状況等について、忌憚のない意見・要望が発言された。特に研究環境の整備、教室間、留学生との交流、図書貸出期間延長等の他、女子院生からは研究科メーリングリストの開設、分煙の徹底等具体的提案がありました。



質問・提言に答える川上副学長

地域住民との国際交流親睦会

国際交流会館に同居している留学

生やその家族と地域住民との親睦会が10月19日(土)に北島町八丁野の同会館で開催されました。この親睦会は、同会館が平成7年に設置されたことを機に北島町八丁野住民と留学生の交流を深めるために実施されているもので、今年で8回目となります。

当日は、あいにく雨天となりましたが、岸会館長(留学生センター長)、服部学務部長はじめ留学生担当の教職員10人、国際交流会館入居者約50人、八丁野自治会長他約50人の合計約110人が参加しました。イギリス、カンボジア、中国、韓国、マレーシア等の留学生が作った多彩な料理や、地域住民が作った日本料理に参加者は舌鼓を打ちました。



多彩な料理の数々

また、カラオケ大会では地域婦人

会の方がハツスルし、留学生と一緒に歌うなど大いに親睦を深めた一日となりました。



留学生とカラオケで歌う地域住民

大学間交流協定締結

テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター（アメリカ合衆国）と「学術交流に関する協定書」の締結を行いました。

ヒューストンヘルスサイエンスセンターとの調印式は、11月27日（水）にアメリカ合衆国テキサス州ヒューストンにあるテキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターで行われ、本学から齋藤学長ほか3名が出席し、協定書に調印すると共に、今後の学術・研究交流及び学生交流について意見交換を行いました。

た。



協定書を取り交わす両学長

なお、テキサス大学との交流協定から、これまでの学生・教官の交流に加え、事務系職員との交流についても盛り込まれることになりました。今回の協定締結により、本学の学術交流協定締結校は29大学となりました。

人事課坂本さん交流協定でテキサス大学へ長期研修に

前のニュースでお知らせしたとおり、テキサス大学と締結した学術交流に関する協定の事務系職員との交流第1号として、人事課第一任用係の坂本恵子さんが選ばれ、1月初旬から3ヶ月間の予定で派遣されること

が決定しました。



執務中の坂本恵子さん

坂本さんは、同大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターに滞在し、同大学の留学生の語学教育や生活指導などの実施状況をはじめとした事務部門の実務研修、資料収集を行うほか、語学研修プログラムにも参加するなど内容の濃いものとなっています。

今後毎年度、事務職員の海外派遣研修実施が計画されており、本学の国際交流推進体制が充実・強化されることが期待されます。

派遣対象は概ね35歳までの若手職員となっております。日々語学力の増強に努め、多数の方が海外で研鑽を積み、徳島大学の発展に尽くしていただきたいと思っております。

徳島大学トリアージ訓練実施

大規模災害により多数の傷病者が発生した場合は、限られた人的物的医療資源を最大限有効に利用するために、傷病者の治療順位を決定するトリアージ（選別）作業が必要になります。しかし、パニック状態にある被災現場や多数の傷病者が殺到する病院前でのトリアージは困難な作業であり、平時における訓練が非常に重要です。



重傷者を担架で運ぶ参加者

10月19日（土）、昨年（第1回）引き続き、第2回徳島大学トリアージ訓練が蔵本地区体育館において行われました。参加者は昨年とほぼ同数の、医師、看護師、救急隊員、事

務職員、学生など約130人を数えました。訓練は、大型バスの横転事故を想定し、メイクアップと演技指導を施した傷病者役、家族役数十人の被災現場に、1班3人のトリアージ班を同時に3班投入するという現場投入訓練方式で行われました。トリアージ班員は重傷者をいち早く発見し、傷病者を4群に分類します。気道確保と外出血の止血以外の処置は行わず、所要時間は傷病者1人当たり1分以内が望ましいとされています。



重傷者を分類するトリアージ班員

ます。簡単な作業のようですが、騒ぎ立てる軽症者、家族にさえざられ、実際には非常に難しい作業であることが訓練によって実感され、日頃の継続した訓練の重要性が再認識されました。

医学教育等関係業務功労者表彰

環境整備関係業務及び看護関係業務に関し顕著な功績があつた者として、医学部管理課設備係矢野善昭氏、医学部附属病院看護部看護係片岡一枝氏に、遠山文部科学大臣から表彰状を授与されました。

本学でも被表彰者に敬意を示し、その功績を称えるため、12月2日（月）記念品贈呈式が学長室で行われ、学長から各人に記念品が贈呈されるとともに、ねぎらいの言葉が述べられました。



矢野善昭氏（左）・片岡一枝氏（右）

齋藤史郎第10代学長が2期6年の任期を満了し離任

齋藤史郎第10代徳島大学長の任期が、1月9日に満了することに伴い、青野敏博新学長との引継式が、昨年12月26日（木）に学長室で行われました。



引継をする齋藤学長（左）青野新学長（右）

齋藤学長は平成9年1月10日の就任以来2期6年を務められ、徳島大学の発展のために多大な業績を残されました。

1月8日（水）に催された離任式では、「勇気と希望をもち、目標に向って前進して下さい」との言葉を残し、各部長、事務局職員等の見送りを受けて徳島大学を後にされました。



離任式後部局長等の見送りを受け事務局を後にする齋藤学長



離任式で各部局長、事務局職員の前に挨拶する齋藤学長